

# 首里城再興学術ネットワークシンポジウム 2021 参加者アンケート

## 1. アンケート調査の方法

### 1) アンケートの実施と収集した期間

令和 3 年 10 月 3 日シンポジウム終了後から同 21 日までに得られた回答をまとめた

### 2) アンケート方法

シンポジウム参加者に WEB アンケートフォームを案内し、回答いただいた

### 3) アンケート回答総数

57 件(オンライン参加総数 149 名 / 回答率 38.3%)

## 2. アンケート詳細

### 1) アンケート結果の概要

本アンケートでは、回答いただいた 57 名の全員から「非常に満足」「やや満足」という肯定的な意見をいただいた。なお、回答者の年代は 40 代から 60 代が全体の 8 割以上を占め、職業は「大学・研究機関等の教職員」が 5 割強であった。また、回答者の 9 割弱は沖縄県内に居住する者であったが、離島やうるま市以北の市町村に居住する者はいなかった。

シンポジウム開催の情報入手先は、「メルマガ」「SNS」「大学公式 HP」「メール」という、PC やスマートフォンからアクセス可能な媒体を回答する者が 5 割を超えた。しかし、「大学からの郵送通知」と回答した者も 1 割を超え、完全オンラインのシンポジウムであっても、手にしたチラシを端緒とする参加が一定数あることを知ることができた。

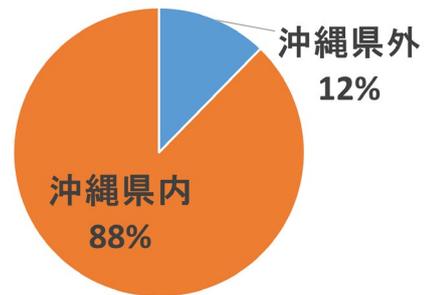
また、本シンポジウムに対する感想を入力する自由記述では、首里城再興に向け、住民、行政、学術という立場から様々な課題や取組の現状を紹介したことに対する好意的な感想や、今後も同様の情報発信や共有、意見交換を行う取組の継続を求める感想が多く寄せられた。一方で、王府という権力の象徴に対する葛藤や、首里だけに注目が集まることへの違和感に言及する感想もあり、異なるバックグラウンドを持つ参加者それぞれが残した率直で多様な意見に触れることができた。

本アンケートの結果は、今後のネットワークのあり方の検討や活動を企画する際の参考資料として活用する。

## 2) アンケート項目と回答 ※端数処理の関係で合計が100%にならないものもあります

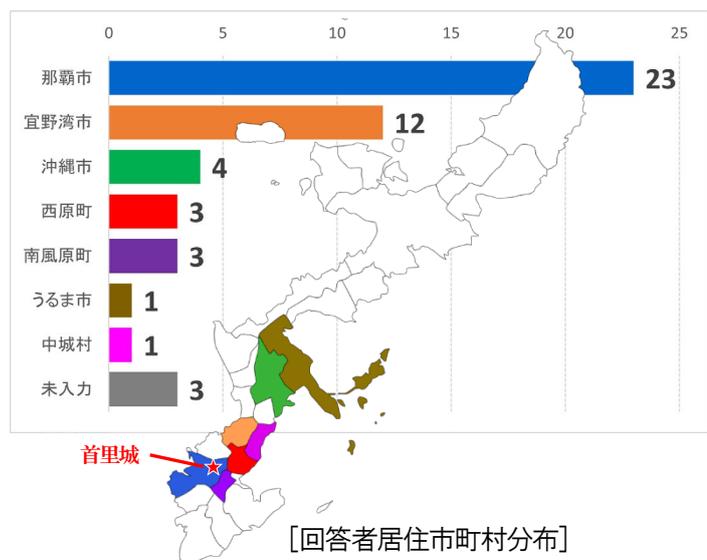
### 【1】 お住まいをお選びください。

	人数	割合
1. 沖縄県外	7	12.3%
2. 沖縄県内	50	87.7%



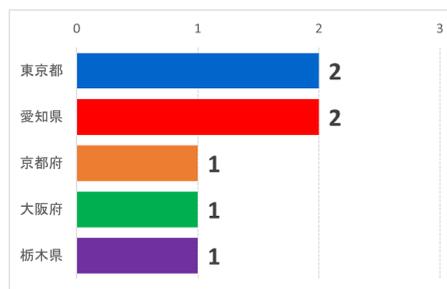
### 【2】【1で沖縄県内をお選びの方】お住まいの市町村をご記入ください。

	人数	割合
那覇市	23	46%
宜野湾市	12	24%
沖縄市	4	8%
西原町	3	6%
南風原町	3	6%
うるま市	1	2%
中城村	1	2%
未入力	3	6%



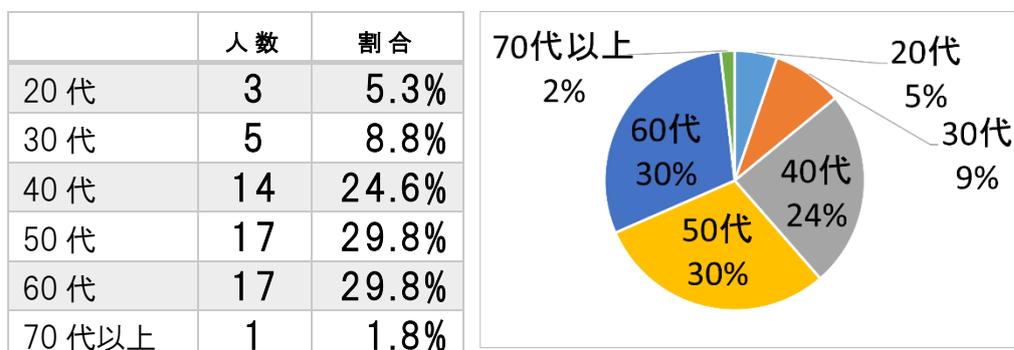
### 【3】【1で沖縄県外をお選びの方】お住まいの都道府県をご記入ください。

	人数	割合
東京都	2	28.6%
愛知県	2	28.6%
京都府	1	14.3%
大阪府	1	14.3%
栃木県	1	14.3%

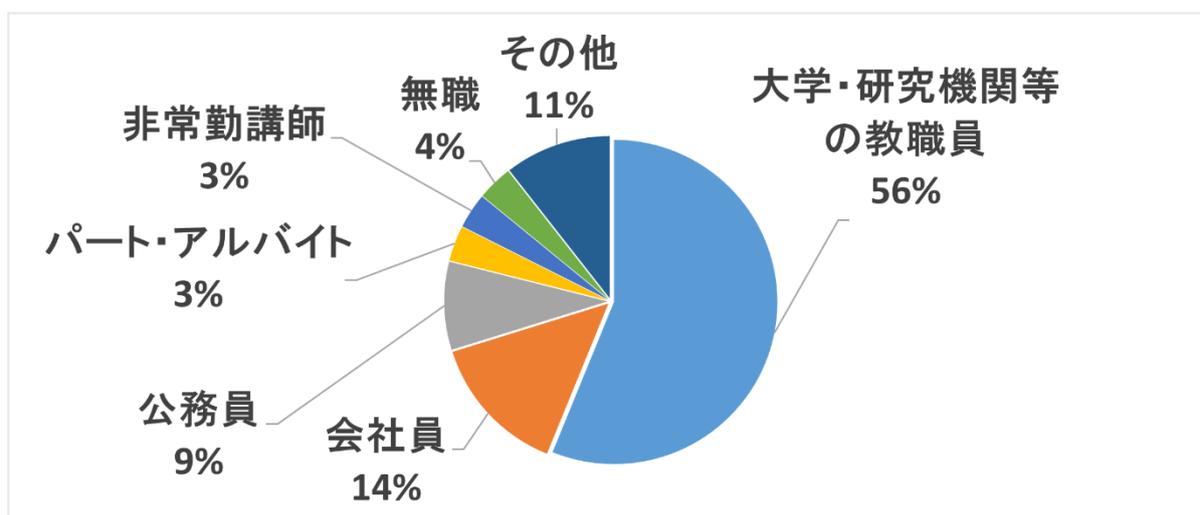


※現在は県外だが那覇市出身であると回答した方1名を含む。

## 【4】年齢をお選びください。



## 【5】職業をお選びください。

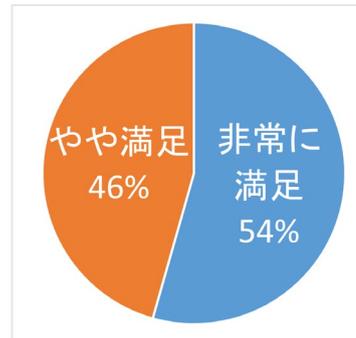


グラフ項目	人数	割合
大学・研究機関等の教職員	32	56.1%
会社員	8	14.0%
公務員	5	8.8%
パート・アルバイト	2	3.5%
非常勤講師	2	3.5%
無職	2	3.5%
その他	6	10.5%

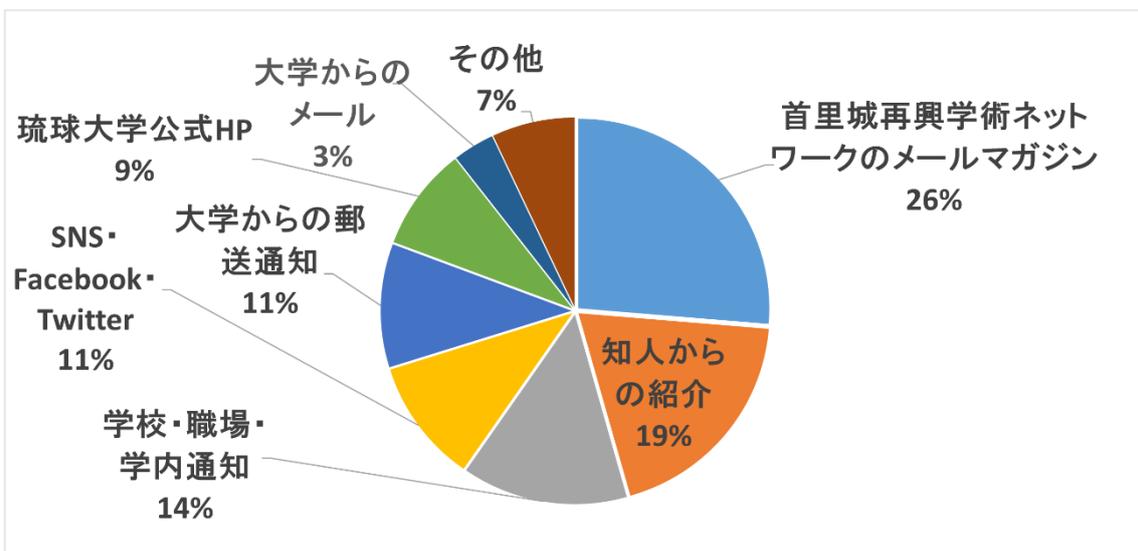
「その他」の内訳	人数
小・中・高の教職員	1
大学生・院生	1
団体役員	1
自営業	1
派遣社員	1
今年定年退職し、現在第2の人生を模索中	1

## 【6】フォーラムはいかがでしたか。

	人数	割合
非常に満足	31	54.4%
やや満足	26	45.6%



## 【7】本日のフォーラムについての情報を、どこでお知りになりましたか。



グラフ項目	人数	割合
首里城再興学術ネットワークのメールマガジン	15	26.3%
知人からの紹介	11	19.3%
学校・職場・学内通知	8	14.0%
SNS・Facebook・Twitter	6	10.5%
大学からの郵送通知	6	10.5%
琉球大学公式HP	5	8.8%
大学からのメール	2	3.5%
その他	4	7.0%

「その他」の内訳	人数
ポスターセッション発表者	1
沖縄県建築士会	1
新聞	1
役所・役場	1

【8】首里城再興学術ネットワークでは、情報発信を目的として、2020年4月からメールマガジンを発信しています。

バックナンバー：[http://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/mail\\_magazine\\_menu.html](http://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/mail_magazine_menu.html)

メールマガジンの配信を希望される方は、メールアドレスをご記入ください。

→ メールアドレス入力者数 27名

【9】フォーラムへのご感想や琉球大学に今後取り組んでほしいことなど、ご自由にお書き下さい。

(謝辞以外を抜粋)

■感想

- 首里城焼失からもうすぐ2年で、どのように受け止め、行動していくかが沖縄県民をはじめ、日本の課題だと思っています。
- 様々な取り組みの紹介と問題提起などがあり、とても勉強になりました。
- パネリストの素晴らしい取り組みを拝見して新たな発見ばかりでした。
- パネリストの皆さまからは、当時を思い出させる真剣な取り組みにも感動しました。沖縄県民は、すくなくとも、先人の培った文化に誇を感じて現代の生活文化を営んでおりますので、失われていく文化を大切に見つめる機会が出来たと思います。
- 最後まで楽しく参加させていただきました。
- 県内の研究機関が一堂に会し、首里城に関する建築、文化をはじめ幅広い内容で見ごたえのあるフォーラムでした
- 様々な分野の話を聞けて、非常に満足でした。
- 単なる復元にとどまらず、首里城をテーマにこれほど多様な学術的発表があることに感動いたしました。
- 首里城復興に向けて、様々な分野の専門家が取り組んでいる情報を共有できたことで、県民全体で復興に取り組んでいる実感が持て、認識・理解を深めることができました。
- 貴重な研究成果や報告に触れ、期待が持てます。今後ともよろしく願います。
- 全体を通して大変意義深い内容でした。沖縄を心から愛する一人として、首里城再建の為に、募金の他にも何か出来る事がないかと考えておりましたが、まずは現状を伺い知ることができましたので、これを始めの一歩としたいと思います。
- 首里城復興についての現状を知る事ができ、総体的には良かった。

- 首里城再興に向けさまざまな課題を抱えながらも、産学官民が連携し取り組まれている様子がよく伺えました。特に個人的には「…住民目線で発信するまちづくり」「複層的な首里歴史まちづくり」が、一昨年の首里城火災という深く悲しい出来事を乗り越えて、沖縄に関わる全ての人々が新たに「夢」や「希望」を抱きその実現に向けた活動の輪に広がっていただければと願います。

#### ■今後の取組に対する要望

- 首里歴史まちづくりへの参画
- 今後も取り組みは進んでいくので、その進捗や問題提起などを定期的にこのようなフォーラムで皆で共有できたらとてもよいと思いました。
- 垣根を越える繋がる、価値を次代に繋ぐ、持続可能な社会に直結する一つの形だと思えます。県外国外へも是非発信を強化してください。とても期待しています。
- いのうえちず氏が提案していた、首里城復興の情報発信が各分野で進めているだけにわかりにくいというのは的を得たコメントであった。HPによって紹介するなどそれぞれ努力しているところかと思うが、より一層情報発信を横断的に行うプラットフォームを行政のDXとも絡めるなどし、推進してほしい。
- (パネルディスカッションで提案された) 各大学での講座の横断的に参加の窓口を広げていく取り組みのアイデアもすばらしいと感じた。
- 小さくまとまらず、県も国もつながる復興を目指して欲しい。
- 少なくとも、首里城で舞踊、演舞された方々、人間国宝になられた方々にも登場していただくと、益々実感がわいてきます。来年、楽しみにしております。
- 鎌倉芳太郎の妻、山内静江さんの沖縄での活動について知りたいです。
- 首里城関係、大学内外対象の参加等可能な企画に取り組んで欲しいです。
- 首里城再興ネットワークの他にも琉球大学内で首里城や首里城近辺、琉球学の研究が行われているので、それらも今後、繋げていただきたい。
- もっと知りたいというきっかけになりました。今日のような配信による発信、これから期待しています。
- エイサー、綱引き、村踊り、芭蕉布、民芸品などの地域の民俗文化の継承は葛藤は小さく比較的スムーズですが、王府系の文化財の継承には様々な異論や葛藤が生じています。例えば、組踊劇場の名称の問題、琉球芸能の県の保持者や国の保持者の選考の問題、首里城及び大龍柱の議論に於いても、抑圧者、被害者の問題があるように思います。それら負の問題についても、議論してはじめて、象徴としての首里城、伝統文化のルネッサンスの道が拓けると考えます。
- オンラインで参加できとてもありがたい機会をいただきました。もし次回もできることならオンラインも併用していただきたいです。
- 時が経つにつれて人々の関心が薄まってしまうことが否めない中、今後も定期的なフォーラムの開催を通じて皆さんの関心を掘り起こすことを期待しています。

- しまくとぅばの継承のあり方についてのシンポジウムをお願いします。しまくとぅばは、琉球語の方言であり、話し言葉です。時代とともに変遷する話言葉で、しかも使われることのない小地域の方言が消えるのを残そうとするのは、年寄りのノスタルジーであり、子どもたちに荷重の負担を強いるものです。それよりも、おもろさうし、組踊本、琉歌集は、琉球文で書かれており、琉球語の文字資料であると同時に、琉球古文です。漢文から和文、和文から琉球文が生まれました。その琉球古文を学ぶことは、琉球の伝統文化を学ぶ出発点だと思います。琉球文についてのシンポジウムも、企画してください。
- フォーラムではさまざまな発表があり、大変勉強になりました。引き続きぜひ再建に向けて情報を発信していただけたら幸いです。
- 今後も持続的に活動されることを期待しております。
- 非常に有意義なフォーラムでした。今後とも継続的かつ貴重な交流の場として発展していくことを願っています。
- 首里城復興に向けて色々な取り組みが行われていますが、今回のシンポジウムで取り組み内容を把握することができました。引き続き情報提供(講演会・シンポジウム等)をよろしくお願いいたします。
- 今後は首里城を中心に発展した文学、芸能にフォーカスした内容の企画があると嬉しいです。
- 次回は通常開催できるよう、祈念しております。会場で講演をお聞きし、対面でディスカッションできれば、「非常に満足」となると思います。
- 今回のような研究成果の発表会を継続して実施して頂きたいです。
- 新たな首里城及び首里城下町の開発・持続のために、漏れなく課題を抽出して、その解決に資するための知恵を提供し続けるような大学となることを願います。
- ポスターセッションでは slack を通しての質問だったので、新規登録しなければならない煩わしさを感じて参加しなかった(もう一つ、slack のような第三社を通じてアカウントを新たに作るうえで、安全性は確保されているのか気になったため)。
- 首里だけでなく山原や離島にも目を向けてほしいです。
- 一つ要望ですが、本アンケートの集計結果については、別途 HP 等で公開されては如何でしょうか。特に参加者の内訳(沖縄県内外の比率)がどの程度なのかまたその推移に関心あり。
- 首里城再興にともない、県内の研究者・技術者の人材育成について、今後も引き続き広く注目していただき、取り組んでいければと思います。